

大分県

作業療法士連盟NEWS



『みんなで山頂を目指す!!』作業療法士となるべく、常に可能性へのチャレンジ!!
作業療法学科2年生20名の自分自身へのチャレンジの登山!!

研修会報告：1

診療報酬・介護報酬改定 その後の狙い!

平成30年度診療報酬改定の基本方針(概要)

改定に当たっての基本認識

- ▶ 人生100年時代を見据えた社会の実現
- ▶ どこに住んでいても適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現(地域包括ケアシステムの構築)
- ▶ 制度の安定性・持続可能性の確保と医療・介護現場の新たな働き方の推進

改定の基本的視点と具体的方向性

1 地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進

- 【具体的方向性の例】
- ・地域包括ケアシステム構築のための取組の強化
 - ・かかりつけ医の機能の評価
 - ・かかりつけ歯科医の機能の評価
 - ・かかりつけ薬剤師・薬局の機能の評価
 - ・医療機能や患者の状態に応じた入院医療の評価
 - ・外来医療の機能分化、重症化予防の取組の推進
 - ・質の高い在宅医療・訪問看護の確保
 - ・国民の希望に応じた取組の推進

2 新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実

【具体的方向性の例】

- ・緩和ケアを含む質の高いがん医療の評価
- ・認知症の者に対する適切な医療の評価
- ・地域移行・地域生活支援の充実を含む質の高い精神医療の評価
- ・難病患者に対する適切な医療の評価
- ・小児医療、周産期医療、救急医療の充実
- ・口腔疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応、生活の質に配慮した歯科医療の推進
- ・インバシオンを含む先進的な医療技術の適切な評価
- ・ICT等の将来の医療を担う新たな技術の導入、データの収集・利活用の推進
- ・アウトカムに着目した評価の推進

3 医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進

- 【具体的方向性の例】
- ・チーム医療等の推進等(業務の共同化、移管等)の勤務環境の改善
 - ・業務の効率化・合理化
 - ・ICT等の将来の医療を担う新たな技術の導入(再掲)
 - ・地域包括ケアシステム構築のための多職種連携による取組の強化(再掲)
 - ・外来医療の機能分化(再掲)

4 効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上

【具体的方向性の例】

- ・薬価制度の抜本改革の推進
- ・後発医薬品の使用促進
- ・医薬品の適正使用の推進
- ・費用対効果の評価
- ・効率性等に応じた薬局の評価の推進
- ・医薬品、医療機器、検査等の適正な評価
- ・医療機能や患者の状態に応じた入院医療の評価(再掲)
- ・外来医療の機能分化、重症化予防の取組の推進(再掲)



講師
足立信也氏
参議院議員
足立大を卒業

今回、参議院議員の足立信也氏をお招きし、研修会を開催しました。どのようにして改定率が決定されるのか? 根拠は何なのか? など、具体的話と、将来の日本の社会保障の在り方等、貴重なお話を伺いました。

また、作業療法士が政治に関わることへの重要性・必要性もお話いただき、多くの作業療法士が自分たちの置かれている立場を再認識できる場になったと感じています。

期日:3月17日 19:00~20:30

場所:コンパルホール

講師:足立 信也氏

(参議院議員 医師)

参加者:95名

研修会報告2

トリプル改定！作業療法士に求められること！

日本・大分県作業療法士連盟共催研修会

テーマ：『医療介護改革 国から地域へ』

～制度改正・報酬改定の動向から
作業療法士に求められる行動を考える～

日時：平成29年12月17日(日) 9:50～12:00

場所：大分大学旦野原キャンパス 第2大講義室

後援：(公社)大分県作業療法協会 (公社)大分県理学療法士協会
(公社)大分県言語聴覚士協会 大分県理学療法士連盟



講義する小川議員



＜小川議員と意見交換をする杉原会長と荒木会長＞

講師：小川克巳氏(参議院議員 理学療法士)
コメンテーター：杉原素子(日本作業療法士連盟会長)
コーディネーター：荒木良夫(大分県作業療法士連盟会長)
来賓：石丸知二氏(大分県理学療法士連盟会長)
木村暢夫氏(大分県言語聴覚士協会会長)

議員参加者：
馬場林氏(大分県議会議員) 土居昌弘氏(大分県議会議員)
藤田敬治氏(大分市議会議員) 衛藤延洋氏(大分市議会議員)
吉竹悟氏(竹田市議会議員) 高倉和一郎氏(日田市議会議員)
参加者：134名

専門職として、正念場の年!!

2018年は、『改正国民健康保険法』が施行され、都道府県が国民健康保険の財政運営の責任を負う初年度となります。あわせて、『診療報酬』『介護報酬』『障害福祉サービス等報酬』の同時改定が行われ、『次期医療計画』や『医療費適正化計画』の策定が行われます。

大きな変革を求められるまさに正念場の年に研修会を通して、『今後のリハ専門職の行動』を考えました。県内外の作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・議員の方々が多数参加しました。

社会モデルの作業療法の専門性が求められる！

小川 今後求められるのは、「コーディネート」「マネジメント」能力です。「地域づくり」の考えを深め、医療にとどまらず、社会モデルで考えられるようになる必要があります。

今、作業療法士のもともとの守備範囲に焦点が当たっています。現在、機能訓練的な視点が強く、作業療法士本来のアプローチについて、手を抜きすぎているのではないかと感じています。臨床現場で、大事にしてもらえると良いと思います。

杉原 私は、長く更生関係の施設で働いていました。作業療法士としていかに社会生活の支援が重要かを感じていました。作業療法士の国家資格化されるときの本来的な目的は、医療モデルでなく社会モデルの支援を行う専門職です。しっかりと、そのことを再認識する必要があります。



＜講師、コーディネーターと参加者での集合写真＞

『原点回帰』!!作業療法士の専門性に

焦点が当たっている!!

小川 今回の改定では、『地域包括ケアシステムの構築』、『医療機能の分化・強化、連携の推進』、『質の高い効率的な高齢者の自立支援』『データヘルス計画』『アウトカム評価の推進』が基本的方針です。われわれ専門職にとってのキーワードは、『専門性』つまり『専門職としての原点回帰』です。

また、『再生医療』『AI』こういったものとうり付き合っていくのが重要になってくると考えています。今後、国が考えるゴールは『地域共生社会』です。作業療法士は、多くの期待をされています。

荒木 生活行為向上マネジメント (MTDLP) が注目されています。作業療法士として、自立支援や本人の生活背景を重視した支援、地域生活へのコーディネートが重要ということですね。

どうなる？ 地域医療・福祉

小川 『医療・介護総合確保推進法』『わがごとまると地域共生社会』の理解が重要です。これまで以上に、行政とのつながりを意識して取り組む必要があります。

コーディネーター力を養い地域作りに関わること！

小川 国会で話し合われている改定内容や、その背景となっているデータからわかることは、それぞれ専門職が現在の業務にとどまらず、『地域の視点』を持ち、生活背景を踏まえた支援を行う重要性です。コーディネーター力を養い、地域づくりに関わっていくことが大切です。

そういった意味で、本日県下の議員の方々が、ご参加いただいたことは非常に大きな意味を持つと思っています。

インセンティブは、事業所単位で評価されるべき

荒木 インセンティブに関して、現状では成果を出している市町村のみが評価されている状況と把握しています。自立支援を積極的に行う事業所や、努力をした本人が評価されるべきではないでしょうか？

小川 少なくとも事業所単位で評価されるべきだと考えています。ただ、単純に介護度が下がったから評価するというわけではなく、どういったことを評価していくかはこれからも議論が必要です。

杉原 地域支援は、人材が重要です。人材の活用として、引退したセラピストや家庭に入っているセラピストを活用することが有用と感じています。

どうなる？ 入院医療

小川 病床数は、確実に削減されていきます。医療スタッフは、病期に合わせて配置されていくことが大切になり、その病期に合わせて各専門職が行うアプローチ内容を変化させる必要があります。

杉原 私たち作業療法士はどこに行っても金太郎あめのように同じリハを提供するようなことが無いように注意していく必要があります。協会のガイドラインにある「圏域」「病期」「財源」の3つの視点を持って提供するサービスを変えていかなければなりません。



△藤田議員、馬場林議員、土居議員

どうなる？ 精神科医療・福祉

荒木 精神科医療は、今だ長期入院の支援が続いています。また、最近の世論は、相模原市の事件もあり、精神障害者に対する治安的な側面が強くなる傾向があると感じます。本来の医療的福祉的支援の充実が図られるでしょうか？

小川 国会で、『措置入院に対する考え方』と『地域に帰った後の見守り体制の整備』が重要ということで議論されている。そこに警察権力が参画するかどうか大きな議論となっています。

精神障害者の退院後のサポートは、作業療法士が行う重要な支援

小川 退院後のサポートする人材を作成していくことが必要となった時に、最初は精神保健福祉士しか名前が挙がっていませんでした。その時に「精神科のリハビリテーションの専門家に作業療法士がいる」という訴えをした。実際に『作業療法士等』という名前が入るようになりました。是非、頑張ってもらいたい。

作業療法士が今後臨床でどうあるべきか？

地域の特性・主体性に応じた作業療法を

杉原 作業療法士は、「地域」という言葉を多く使用しますが、地域の自主性・主体性に基づき行うことは、苦手な人が多いと感じています。地域の特性・主体性に応じて行っていかなければならない。

人生100年時代に向けて、われわれ全員が社会的リハビリテーションの視点を持ち、『1人ひとりの評価をじっくり行うこと』『単独世帯の評価をしっかりと行うこと』『地域の特性をしっかりと把握すること』に全力をそそぎ、対象者の方々に社会参加できる機会をつくっていく必要があります。特にIADLは、しっかりと作業療法士が責任を持つ必要があります。

また、医療の現場ではない予防の分野も「医師の指示が必要」となっています。本当に医師の介入がなければ、リハ専門職は動くことができないのか？皆で考えていく必要があります。我々の声を届けていく必要があります。

小川 リハビリテーションは制度上、病気によって分割されていますが、自分の分野だけを考えている状況では本当のリハビリテーションとは言えません。

作業療法士と理学療法士は、それぞれ必然性があるって資格化されています。まとめて1つで、良いわけありません。それぞれの専門性が揃って臨床支援と言えます。

予防に関して医師の指示が本当に必要であるのか？「医師の指示がどんなときにも必要になるのか？」については、考えていかなければなりません。特に予防の分野で、医師の指示がなければならぬということは国民に対して非常に不利益になる。専門職としてしっかり声を出していくことが必要です。

第48回衆議院議員選挙

吉良 州司 氏 横光 克彦 氏 当選!!

第48回衆議院議員選挙にて、大分県作業療法士連盟が応援した、吉良州司氏（大分1区）、横光克彦氏（大分3区）が当選しました。



応援活動

- 1:推薦状交付
- 2:会員への電話連絡
- 3:支部連絡交流会等にて会員へ説明会実施
- 4:18歳選挙「選挙参加チラシ」作製配布200部
- 5:Face bookやホームページでの広報

【推薦状の交付・個人演説会への参加】

【当選後の意見交換：吉良 衆議院議員】



<横光候補へ尾山圏域部長より推薦状の交付，個人演説会での応援参加>

<大分県作業療法協会ビルに来訪し、意見交換会開催>

由布市議会議員選挙・臼杵市議会議員選挙

加藤 幸雄 氏 当選!!

元病院事務長、その経験より、作業療法-理学療法等の違いを理解しており、作業療法士の地域医療における今後の活躍を期待している方です。

我々に対する高い期待を評価し、推薦状を交付し、応援活動しました。



大塚 州章 氏 当選!!

柔道整復師として活躍中。

地域医療福祉において、作業療法士の自立支援の発想が重要との視点を評価し、推薦状を交付しました。


応援活動し見事当選しました。




<加藤候補へ甲斐幹事より推薦状交付>

<大塚候補へ田中副会長より推薦状の交付>

「私たちは大分県作業療法士連盟の活動を応援しています!」

 **株式会社ライフリー**
 デイサービス楽 大分市毛井553-1
 TEL:097-529-9025

A/Z
 Arizono Bespoke 大分市王子町7-1NIKKOビル1F
 TEL:097-533-1010

 **いまみや補装具サービス**
 大分市花津留1-2-18 TEL:097-574-8432

 **有限会社大分タキ**
 TEL 0977-67-6538

 **佐々木写真館**
 豊後大野市三重町赤嶺 1186-70 TEL 0974-22-0046

事務局: 〒870-0124 大分市大字毛井553-1
 (デイサービスセンター案内)
 TEL: 097-529-9025 FAX:097-520-1765

その他の応援活動や詳細はホームページをご覧ください
<http://www.oita-otrenmei.com/>